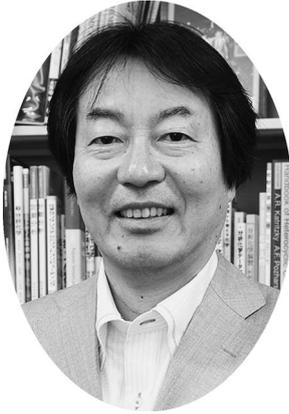


# 情報シームレス時代と Analytical Sciences



鈴木 孝 治

Analytical Sciences は、来年に 30 周年を迎えます。これまでに編集委員や編集を支えてこられた方々、および論文をご投稿いただいた会員各位に敬意を表します。これまでに発刊した Analytical Sciences の各巻各号につきましては、本会のホームページから容易にアクセスできますので、どうぞご利用ください。

同誌の 30 周年を記念して、「State-of-the-Art Analytical Science and Technology」と題した特集号を 30 巻 1 号として、2014 年 1 月に出版いたします。この記念号企画もそうですが、編集委員会ではインパクトファクター (IF) を上げるように、様々なことを考えております。現在は、オリジナル論文、レビュー (依頼総説)、速報などを各号に掲載しているほか、不定期に特集号を設けて最新の分析化学研究を世界に発信しております。編集方針としては、Quality First (論文の質が第一) をモットーに、Graphical Index として要旨にも図を入れることや Key Words を加えて研究内容を理解しやすくするなどの工夫、さらには魅力的なレビューを増やし、Focus や Research Trends と題する最新的话题を読者に提供していくように鋭意検討を重ねており、IF の向上を図っていきます。

IF は過去 2 年間に掲載された論文が、その年に平均何回引用されたかということ定義しており、Web of Science などにデータが公表されています。著者は IF を気にして投稿することがありますが、編集側も同様に雑誌の質と魅力を知るための指標と捉えています。ただし、論文は現在の国際化と電子化の流れに乗り、間もなく情報シームレスの時代を迎えると、評価は少し変わってくるように思います。オープンアクセスジャーナルが増えていき、オンデマンドで印刷する以外はすべてパソコンや携帯端末によって論文を見るという時代になりつつあります。このような状況では表紙や本の体裁などは考える必要がありませんから、編集側は論文のコンテンツを整理するだけで済みますし、さらに読者側はどの論文をどの雑誌から見るといった必要もなくなりますので、論文でも何でも情報シームレスです。こうなると、論文は IF よりも、どれだけ引用されたかという Citations (引用数) によって価値が決まってきます。現在、科学の専門誌ですと、Nature や Science がとても高い IF を持ちます。ところがこれらの雑誌の中にも、引用数が少ないもの、つまりあまり読まれていないとか興味をもたれない論文があります。このため、引用数が論文の評価や審査資料として使われる可能性が高くなってきました。これからはどの雑誌に掲載されたかではなく、個人の論文が直接評価される時代を迎えると言えます。

幸いにも Analytical Sciences は、既にオープンアクセスジャーナルです。いつでも、世界のどこからでも情報端末を使って読むことができます。

会員各位におかれましては、この 30 周年を機に、情報シームレス時代に対応した Analytical Sciences に質の高い論文を多数投稿いただきたく、ご支援をお願いいたします。

〔Koji SUZUKI, 慶應義塾大学理工学部, 「Analytical Sciences」編集委員長〕